

2022年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
ステージシステム 2											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	堀田 和宏			実務経験	有	職種	レコーディングエンジニア・PAオペレーター他				
担当教員紹介											
レコーディングエンジニアからキャリアをスタートし、ホール管理・PAエンジニアの経験や電気音響設備の設計施工監理など、幅広い音響分野の実務経験に基づいた実務を展開している。数多くのライブレコーディングやライブ配信の経験を持つ。											
授業概要											
舞台機構技能検定3級相当の試験科目に準拠した内容を学習する。 コンサートや演劇での専門用語、演劇・コンサートなどの舞台全般の知識と音響技術、電気の基礎知識、楽器の基礎知識と音響技術者としての聴力形成ができるようになることが主な目的となる。 本講義はオンライン形式にて講義を進めていく。											
到達目標											
音響エンジニアとして、様々なコンサート・イベント現場で必要な知識を得ることが目標である。 録音(レコーディング)だけでなく、各種コンサート・イベントに積極的に関わって行ける事を目標とする。											
授業方法											
音響職全般における心構えと基礎となる広範囲な知識を修得する。劇場等演出空間運用基準協議会発行の「舞台技術の共通基礎」や舞台機構調整技能士検定3級問題集から学習を行う。											
成績評価方法											
試験・課題 80% 試験を総合的に評価する 平常点 20% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する											
履修上の注意											
キャリア形成の観点から授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。また積極的に芸術文化に対する情報を収集し鑑賞を推進し、さらに社会で起こっている事象の原因や今後の推移について考えること。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
参考書・参考資料等は、授業中に適宜指示する。											
回数	授業計画										
第1回	オリエンテーション：講義の目的及び内容、講義コンセプト										
第2回	コンサート会場の種類と違い アリーナ・ホール・ライブハウスの基本的な特徴と区分けを説明する。										
第3回	コンサート制作のプロセス コンサートが企画から制作・運用までのプロセスを説明する										
第4回	コンサート開催に関して関与する法規・条例と安全衛生について										
第5回	舞台音響について1：舞台での音響演出手法①(演劇・ミュージカル)										

2022年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
ステージシステム 2	
第6回	舞台音響について2：舞台での音響演出手法②(コンサート)
第7回	舞台照明について：光がもたらす演出手法
第8回	舞台機構について：舞台機構がもたらす演出手法
第9回	舞台機構対策1：音響家として必須の電気の基礎知識
第10回	舞台機構対策2：音響家としての聴力形成（音の弁別）[舞台機構調整技能検定3級のヒアリング(判断等試験)解説]
第11回	舞台機構対策2：音響家としての聴力形成（音楽の種類）[舞台機構調整技能検定3級のヒアリング(判断等試験)解説]
第12回	舞台機構対策4：舞台機構調整技能検定3級相当の筆記試験項目の解説
第13回	舞台機構対策5：舞台機構調整技能検定3級相当の実技試験(製作等作業試験)項目の解説
第14回	後期試験 対策
第15回	後期授業まとめ